

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
公衆衛生学 Public Health		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士養成課程に係る科目（栄養士資格指定科目）				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡村幸重	非常勤講師室	火曜日・3時限の講義前・前後を予定		授業中に指示します
授業の概要				
<p>栄養士指定科目に係る「社会・環境と健康」という学問体系の中で、栄養士が地域、職域、学校などで公衆栄養活動を行うための基礎となる科目である。本教科は社会医学とも言われ、人間集団に関わるものを対象とした学問を、我が国の社会制度とともに学習していく。</p>				
授業の目標				
<p>①国民の健康状態・疾病の測定、生活習慣の現状と対策について認識することができるようにする。 ②主要疾患の疫学と予防を保健統計、制度、関連法規を分類することができるようにする。 ③栄養士として必要な生活習慣病と疾病、生活環境の保健、健康管理等の基本を認識することができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>必須事項の板書、資料提示（紙媒体、プロジェクター提示等）を基本として授業を行う。重要資料は適宜に配布する。ミニッツペーパーを実施する。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>①栄養士資格を取得するうえで必要となる条件である「公衆衛生学」に関連する領域を解説することができる。 ②国民の健康状態、疾病の測定、生活習慣の現状と対策及び改善策などを分かりやすい言葉で具体的に解説することができる。 ③主要な疾患の疫学と予防、保健統計、保健制度、関連法規等の実際を正確に解説することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス（授業目標と評価）、公衆衛生学序論（公衆衛生・予防医学の概念と意義）			
第2回目	公衆衛生・予防医学の歴史、保健統計の意義と概要（人口静態統計、人口動態統計）			
第3回目	生命表、疾病統計、その他の保健統計			
第4回目	健康状態・疾病の測定と評価（疫学の概要、易学的手法とその解釈）			
第5回目	健康状態・疾病の測定と評価（EBM、リスク分析と管理）			
第6回目	生活習慣病（がん・心疾患・脳血管疾患）			

第7回目	生活習慣病 (1. 高血圧・糖尿病・高脂血症・痛風・骨粗鬆症等)	
第8回目	生活習慣病 (2. 高血圧・糖尿病・高脂血症・痛風・骨粗鬆症等)	
第9回目	母子保健 (母子保健の現状と対策、行政政策)	
第10回目	学校保健 (学校保健の現状と対策)	
第11回目	産業保健 (産業保健の現状と対策)	
第12回目	老人保健・福祉 (高齢者保健の現状と対策)	
第13回目	精神保健(及びその概要・現状)	
第14回目	13回までのまとめとディスカッション (試験内容について解説も行う)	
第15回目	保健医療制度と法規 (衛生法規と行政、医療保障制度、国際保健医療) (講義項目全体のまとめを含む)	
事前・事後学習	事前に指定のページを読んでくること。わからないことは図書館で調べること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	講義に集中し、必要な項目を整理して独自のノートとしてまとめる。さらに積極的に講義内容に対して参加する。集中して講義に参加しないものは評価が低い(C=60評価)。
レポート	10%	求められた課題を理解し、講義内容や参考書等を利用してまとめる。目的・内容をしっかり理解し、積極的に参加する(S=90評価)。②意見を述べている(参考資料を示す)(A=80評価)。
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	①全出題項目が理解できている(S=90評価)。②重要な出題項目が理解できている(A=80評価)。③基本的な問題が理解できている(B=70評価)
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
別途指示する。試験は指定教科書より出題されるので必ず購入すること。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験 (職種：医師、職歴通算26年) 管理栄養士資格の受験資格の基礎であり、栄養士資格の指定科目であることを踏まえて授業に臨むこと。		